



## 「スティーブ・ジョブズ氏の言葉を心に」 福永 翔平 (平原)

「世界にお返しをするつもりで生きる」は昨年10月に亡くなった事業家スティーブ・ジョブズ氏が生前に口にしていた言葉です。

私たちは自分たちで食べるものを作っていません。私は自分たちで創った服を着ていません。自分たちでつくった言葉も、自分たちでつくった数学も存在しません。常に社会から何かを受け取って生きている、ということです。

私たちの歩むであろう道のりは平坦ではありません。今後、様々な人々に助けられ、生きていくのだから、すべての人々にお返しをするつもりで感謝していきたいと思います。

「成人」をむかえ、私たちは法律上ひとりの社会人として、選挙権をはじめ、様々な権利が与えられました。それと同時に社会に対して、大きな義務と責任を負うこととなりました。本当の社会の厳しさを味わい、そしてその厳しさの壁を乗り越えなければなりません。

昨年留学したオーストラリアでは言葉の壁を経験しました。私達が越えていかねばならない壁です。グローバル化が広がる現代に生きる人間として、英語を不自由なく使えることは必須となります。また、日本・世界の動向に目を向け、新しい可能性を切り開いていかねばなりません。

この成人式を機に、これから先の、明確なビジョンを持ち、自らをしっかりと見つめ、目標に向かって、さらに邁進していきたいと思います



## 「二十歳の今を第一歩として」 田中 遥菜 (南田尻)

現在私は大学の法学部に在籍しています。今まで知ろうともしなかった社会の仕組みや規則が分かりはじめ、とても興味深いです。法律を学ぶにつれ、改めて実感することは、権利には義務も伴うということです。私たちは成人したことで、今までは持たなかった、自分で決断し行動に移す権利を得ました。しかしそれは同時に自分の行動に責任を持たねばならないということです。私は

学業以外にアルバイトや部活動、委員会活動をしていますが、最近、大事な役職を任されることが増えてきました。どの活動も周りの人との連携があって初めて機能するものばかりなので、成人として責任感を持って仕事に取り組んでいきたいと思っています。

もうひとつ、私がこの大学生活で心がけたいことがあります。それは、芯が強く自立した、目配りの出来る大人になることです。それは、私が小学生のころからの目標でした。今ここにいる私は、残念ながら当時の私が思い描いていた一人前の「大人」の姿にはまだまだ及びません。二十歳の今を第一歩として、学生生活中に積極的にあらゆることに挑戦し、見聞を広めて、一歩ずつそんな大人に近づきたいと思っています。

これまでの20年を振り返ってみると、目標に向かってがむしゃらに努力すること、失敗の悔しさ、そして目標を達成した時の喜びを学ばせてくれたのは吹奏楽部でした。富合中学校での経験がなければ、みんなで一つのハーモニーを作ることがあんなに難しいこと、たくさんの方々に感動してもらえることがあんなに嬉しいことを知ることはなかったでしょう。あの貴重な経験をさせてくださった先生方や仲間たち、そして進路のこともろくに考えずに部活動に明け暮れる私を、呆れながらも見守り、応援してくれた家族には感謝せずにはいられません。その感謝の気持ちを忘れずに成長し続け、これまで支えてくださった方々に恩返しをしていきたいです。



## 「大きな流れになって」 紫垣 将悟 (榎津)

今回晴れて成人となりました。今こうして式を迎えられるのは本当に喜ばしいことだと思います。昨年の大震災では多くの命が亡くなりました。その中には幼い子どもから自分たちと年の変わらない人々も大勢いたはずで。今こうして、みなさんの前で話をしてることが幸せであると心にとめておかないとはならないと思います。

さて、少し話は変わりますが、先日会社を定年退職された先輩が言っていた言葉があります。それが心に残るものでしたので紹介します。

「人生は川の流れのような感じがする。お前たちが川の流れになるのか、それともその流れにのるのか自分で選んで生きていけ」と言われました。自分はどうせ生きていくなら、やっぱり流れになるほうがいいです。大きく皆を乗せていけるぐらいの流れになれることを目指してこれからも生活していきたいと考えています。